

再保険の課題

トーマ再保険 江利口 耕治

1. はじめに

再保険とは、保険者が自己の負担に対する保険責任の一部または全部を、他の保険者に、転換する経済行為であり、保険者の事業成績の安定化、異常損害に対する備え、保険者の引受能力の補完、を主な機能としている。自然災害をはじめとする巨大災害、巨大リスクにかかわるリスク消化は、再保険事業がコアとするところの一つである。

2. 近年の巨大災害と再保険

2011年は、東日本大震災、タイにおける未曾有の洪水など日本経済に影響が及ぶ甚大な災害が発生した他、世界的にも、ニュージーランドにおける地震、オーストラリアにおける洪水など、大規模な保険金支払いを伴う自然災害が多数発生した。2011年に発生したこれらの自然災害を含め、過去の自然災害による高額損害における再保険の寄与度は一定割合に達しており、巨大災害にかかわる保険金支払いにおいて、再保険は大きく貢献している。

3. 東日本大震災とタイ洪水

東日本大震災とタイ洪水はともに保険業界および再保険業界に大きな影響を及ぼしたが、その（再）保険金支払いについては、リスク管理の観点から相違があったと考えられる。

4. 再保険業界へのインパクト

(1) 2011年再保険者決算概況

2010年および2011年に発生した自然災害を受け、多くの再保険会社の事業成績は悪化し収益性指標であるコンバインド・レシオが100%を超過する再保険者も続出した。その結果、再保険業界全体の資本は若干減少することとなった。

(2) 再保険マーケットへの影響

過去の再保険マーケットを振り返ると、巨大災害が発生すると、その負担に耐えられず倒産、ないしは再保険マーケットから撤退する再保険プレーヤーが出てくる。そうすると、再保険マーケットが縮小し、需給関係から再保険料率が上昇する。そうなる、今度はチャンスと見た投資家が新たに再保険会社を設立して参入し、再び競争が激化して料率が低下するというサイクルを繰り返している。2012年1月および4月の再保険の特約（契約）更改では一定の料率上昇が見られ、再保険マーケット・ハード化の兆しも見られた。

5. 再保険の課題 ～ 異常災害をいかに引受けるか ～

再保険は、源泉ビジネスの引受け判断を元受保険会社に依存し、元受保険からリスク転換を受けるビジネスである。再保険会社は、元受保険会社といわば運命共同体的位置付けであり、再保険が直面する課題は、その多くを元受保険会社と共有することになる。

2011年に経験した異常災害によって、再保険会社も集積管理の精緻化を迫られることとなった。タイの洪水リスクに代表される新興国における洪水リスク等、モデリングが発達していない地域における自然災害リスクについては、引受リスクを再評価するとともに、同じような事故が起こりえないか、分からないリスクを能動的に探し、それに備えることが課題と認識される。リスクモデルによる集積管理が進んでいたといえる日本の地震リスクについても、東日本大震災で大きな影響が及んだ津波リスクについては、適切にリスクを評価し得るリスクモデルが存在しない点が問題点として浮上している。また、タイ洪水で問題意識が高まった敷地外利益（Contingent Business Interruption）に関するリスク把握についても、再保険特約に直結する問題であることから、再保険者も強い関心を持っている。

想定外を排除し、あらゆるリスクに備えることが、巨大災害における再保険金支払いを確実にするとともに、再保険キャパシティの裏づけとなる担保力の維持に繋がる。こうした観点から、再保険に出再されるリスクに関するより高度な情報開示、また、再保険契約上の条件強化も求められている。